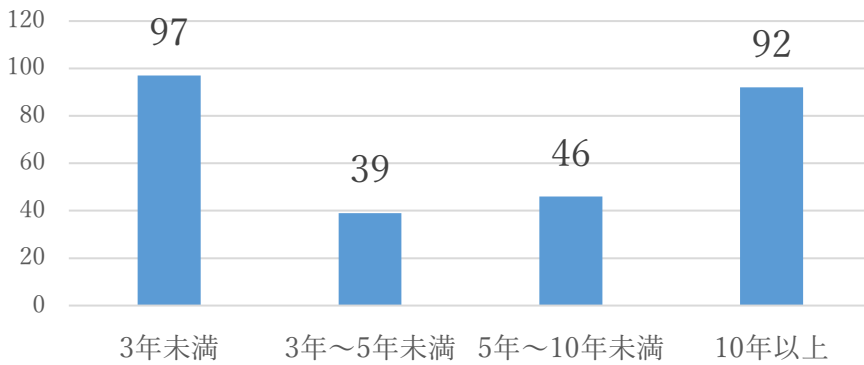


未熟練労働者の労働災害を防止しましょう！

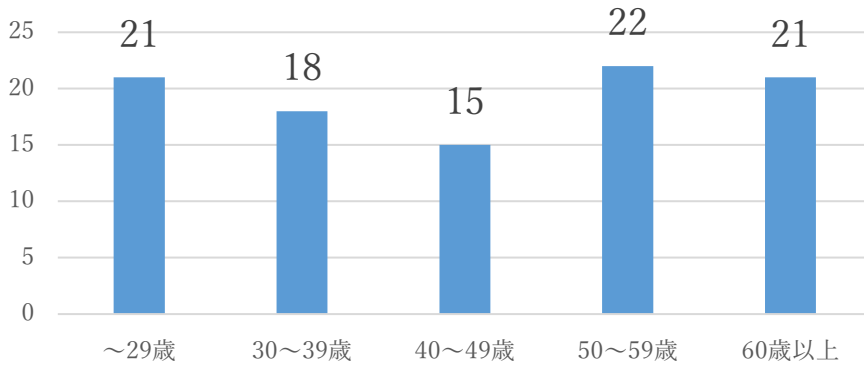
in 松阪&多気地区

松阪・多気地区では、令和2年の休業4日以上死傷者数は274人で前年260人より14人増加となりますが、その内、経験年数3年未満の未熟練労働者による災害が97人（35.4%）と多数を占めており、未熟練労働者に対する安全衛生教育の徹底など、安全衛生対策が必要な状況です。

令和2年 被災者の経験年数ごとの災害発生状況



令和2年 未熟練労働者（年齢別）



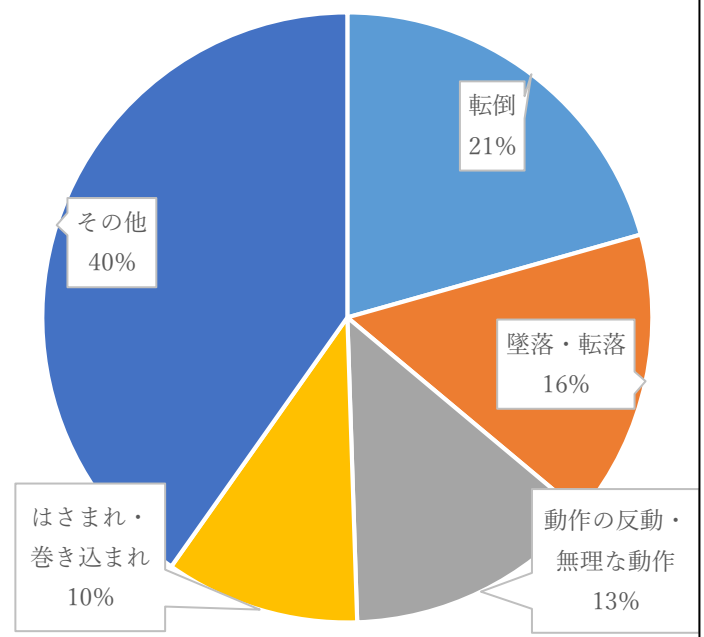
未熟練労働者の災害傾向

- ・20代以下だけではなく各年齢で仕事や職場に不慣れなうちに被災することが多く、年齢に限らず新規採用者等の安全衛生教育が重要です。
- ・あらゆる業種で災害全体に占める未熟練労働者の割合が高くなっています。
- ・事故の型別には、転倒が最も多く、次いで、墜落・転落、腰痛や捻挫（動作の反動・無理な動作）、はさまれ・巻き込まれと続いています。
- ・墜落・転落やはさまれ・巻き込まれ災害など、死亡や重篤な障害を残すような災害も多く発生しています。

令和2年 未熟練労働者（業種別）

業種別	未熟練災害件数	全体災害件数	未熟練災害割合
製造業	27	68	39.7%
建設業	10	26	38.5%
運送業	8	36	22.2%
陸上貨物取扱業	1	2	50.0%
農業	2	4	50.0%
林業	4	8	50.0%
小売業	13	43	30.2%
病院	3	6	50.0%
社会福祉施設	13	30	43.3%
飲食店	6	14	42.9%
その他の第三次産業	10	32	31.3%
全産業	97	274	35.4%

令和2年 未熟練労働者（事故の型別）



転倒災害を防止するためのポイント

チェックリストを活用し、改善方法は「安全委員会」などで、アイデアを出し合いましょう！

- 通路、階段、出口に物を放置していませんか
- 床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか
- 通路や階段を安全に移動できるように十分な明るさが確保されていますか
- 靴は、すべりにくくちょうど良いサイズのものを選んでいませんか
- 転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか
- 段差のある箇所や滑りやすい場所などに、注意を促す標識をつけていませんか
- ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか
- ストレッチや転倒予防のための運動を取り入れていますか
- 転倒を予防するための教育をおこなっていますか

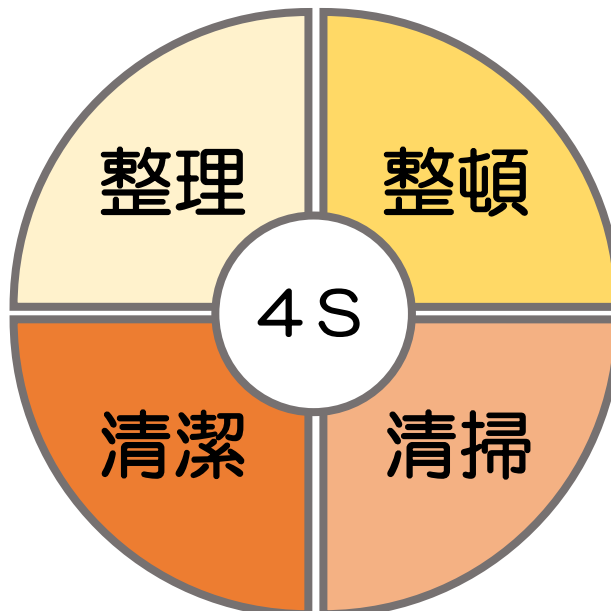


転倒の予防に有効な4S活動とは？

4S活動とは、整理、整頓、清掃、清潔のことをいいます。凍結した路面や油汚れ・水濡れなどによる「滑り」や、通路上の荷物への「つまずき」による転倒災害を防ぐには、職場内の4S活動が、基本的かつ最も重要な対策です。4S活動の取組み方法には、推進委員会を立ち上げる、チェックリストを活用する、各作業場の責任者とその範囲を明確化する等の方法があります。

必要なものと不要なものを区分し、不要、不急なものを取り除きましょう

職場や機械、用具などのゴミや汚れをきれいに取って清掃した状態を続けること
作業員自身も身体、服装、身の回りを汚れの無い状態にしておきましょう



必要なものを、決められた場所に、決められた量だけ、いつでも使える状態に、容易に取り出せるようにしておきましょう

ゴミ、ほこり、かす、くずを取り除き、油や溶剤など隅々まできれいに清掃し、仕事をやりやすく、問題点が見つかるようにしましょう

はしごや脚立、階段からの墜落・転落防止のポイント

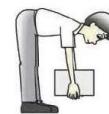
- 移動中、足元の確認を徹底し、踏み外しを防止しましょう。
- 階段を昇り降りする際には手すりにつかまりましょう。
- はしごの上部・下部の固定状況を確認しましょう。
(固定できない場合はほかの人にはしごを支えてもらいましょう)
- はしごの上端を上端床から60cm以上突出させましょう。
- はしごの立て掛け角度を75度程度確保しましょう。
- はしご、脚立から身体を乗り出さないように作業しましょう。
- はしご、脚立の昇降時に手に荷物を持たずに昇降しましょう。
- 脚立の天板に乗って作業をしないようにしましょう。



腰痛症を予防するためのポイント

- 人力での重量物取扱い作業をなくすこと！
腰部に負担のかからないよう、重量物はできるだけ機械(クレーン、フォークリフト)や用具(台車など)を使って移動させましょう。
- 重量物の正しい取扱いを！
 - ・できるだけ重量物に体を近づけ、重心を低くするような姿勢で。
 - ・床面から重量物を持ち上げる場合、片足を少し前に出しひざを曲げ、腰を十分に下ろして重量物を抱え、ひざを伸ばすことによって立ち上がる。
 - ・大きな物や重量物を持つての移動距離を短くし、人力での階段昇降は避けましょう。
重量物を持ち上げるときは、呼吸を整え、腹圧を加えて行いましょう。
- 腰痛予防のためストレッチを！
作業開始前や、重量物を取り扱う場合は、事前にストレッチを行いましょう。

<重量物の取扱い>



「はさまれ・巻き込まれ」災害防止のポイント

- 機械の清掃、修理は機械を止めてから！
機械の清掃等を楽に行おうとして、機械を動かしたまま行い、はさまれ・巻き込まれる重篤な災害が発生しています。
- 機械を止めた作業は不意の起動防止を！
機械の清掃や調整を行うため、機械の起動スイッチを切って作業を行っているときに、他の作業者が気付かずにスイッチを入れてしまい、作業者が機械にはさまれる、巻き込まれる災害が発生しています。起動スイッチに錠をかけたり、起動装置に表示板を取り付ける等の措置を講じましょう。
- 囲い、安全装置等はその機能の維持を！
安全のため設けられた囲い等を作業の効率を上げるため外して、機械に巻き込まれる災害が発生しています。通常の作業において囲い等を取り外さないようにするとともに、修理や点検など作業の必要上、一時的に囲い等を取り外した場合は当該作業終了後、早急に囲い等を復旧するようにしましょう。

